



# ホームディレクトリを管理します

## ONTAP 9

NetApp  
April 24, 2024

# 目次

ホームディレクトリを管理します .....	1
ONTAP で動的ホームディレクトリを有効にする方法 .....	1
ホームディレクトリ共有 .....	2
ホームディレクトリ検索パスを追加します .....	5
%w 変数と %d 変数を使用して、ホームディレクトリの設定を作成します .....	6
%u 変数を使用してホームディレクトリを設定します .....	8
追加のホームディレクトリの設定 .....	12
検索パスを管理するコマンド .....	12
SMB ユーザのホームディレクトリパスに関する情報を表示します .....	13
ユーザのホームディレクトリへのアクセスを管理します .....	13

# ホームディレクトリを管理します

## ONTAP で動的ホームディレクトリを有効にする方法

ONTAP ホームディレクトリを使用すると、SMB 共有を設定し、ユーザと一連の変数に基づいてさまざまなディレクトリにマッピングすることができます。ユーザごとに別個の共有を作成するのではなく、1つの共有を設定し、いくつかのホームディレクトリパラメータを指定して、エントリポイント（共有）とホームディレクトリ（SVM 上のディレクトリ）間の関係をユーザ単位で定義します。

ゲストユーザとしてログインしたユーザは、ホームディレクトリを持ちません。また、他のユーザのホームディレクトリにアクセスすることはできません。ユーザとディレクトリのマッピング方法を決定する4つの変数があります。

### • \* 共有名 \*

ユーザの接続先として作成する共有の名前です。この共有にはホームディレクトリのプロパティを設定する必要があります。

共有名には、次の動的な名前を使用できます。

- %w （ユーザのWindowsユーザ名）
- %d （ユーザのWindowsドメイン名）
- %u （ユーザのマッピングされたUNIXユーザ名） すべてのホームディレクトリ間で共有名を一意にするには、共有名に/%w または %u 変数（Variable）：共有名には両方を使用できます %d および/%w 変数（例： %d/%w または、共有名に静的な部分と変数の部分（home\_ など）を含めることができます /%w`）。

### • \* 共有パス \*

共有によって定義される、つまり、共有名の1つに関連付けられる相対パスです。各検索パスに付加されて、SVM のルートからのユーザのホームディレクトリの完全パスを生成します。静的（例： home）、動的（例： %w）、または2つの組み合わせ（例： eng/%w）。

### • \* 検索パス \*

SVM のルートからの絶対パスのセットで、ONTAP ではこのパスに基づいてホームディレクトリが検索されます。を使用して、1つ以上の検索パスを指定できます `vserver cifs home-directory search-path add` コマンドを実行します複数 ONTAP の検索パスを指定すると、有効なパスが見つかるまで、指定された順に各検索パスが試行されます。

### • \* ディレクトリ \*

ユーザに対して作成する、そのユーザのホームディレクトリです。通常、ディレクトリ名はユーザの名前です。ホームディレクトリは、検索パスで定義されるいずれかのディレクトリに作成する必要があります。

たとえば、次のように設定します。

- ユーザ： John Smith
- ユーザのドメイン： acme
- ユーザ名： jsmith
- SVM 名： vs1
- ホームディレクトリ共有名#1：home\_ %w -共有パス： %w
- ホームディレクトリ共有名#2： %w -共有パス： %d/%w
- 検索パス#1： /vol0home/home
- 検索パス#2： /vol1home/home
- 検索パス#3： /vol2home/home
- ホームディレクトリ： /vol1home/home/jsmith

シナリオ1：ユーザーがに接続します \\vs1\home\_jsmith。これは最初のホームディレクトリ共有名に一致し、相対パスが生成されます jsmith。ONTAP がというディレクトリを検索するようになりました jsmith 各検索パスを順にチェックするには、次の手順に従います。

- /vol0home/home/jsmith は存在しません。検索パス#2に進みます。
- /vol1home/home/jsmith は存在します。したがって、検索パス#3はチェックされません。これで、ユーザは自分のホームディレクトリに接続されました。

シナリオ2：ユーザーがに接続する \\vs1\jsmith。これは2番目のホームディレクトリ共有名に一致し、相対パスが生成されます acme/jsmith。ONTAP がというディレクトリを検索するようになりました acme/jsmith 各検索パスを順にチェックするには、次の手順に従います。

- /vol0home/home/acme/jsmith は存在しません。検索パス#2に進みます。
- /vol1home/home/acme/jsmith は存在しません。検索パス#3に進みます。
- /vol2home/home/acme/jsmith は存在しません。ホームディレクトリが存在しないため、接続は失敗します。

## ホームディレクトリ共有

### ホームディレクトリ共有を追加します

SMB ホームディレクトリ機能を使用する場合、共有プロパティにホームディレクトリプロパティを含む共有を少なくとも 1 つ追加する必要があります。

このタスクについて

ホームディレクトリ共有は、共有の作成時にを使用して作成できます vserver cifs share create コマンドを入力するか、を使用して、既存の共有をいつでもホームディレクトリ共有に変更できます vserver cifs share modify コマンドを実行します

ホームディレクトリ共有を作成するには、を含める必要があります homedirectory の値 -share -properties オプションは、共有を作成または変更するときに使用します。共有名と共有パスは変数を使用して指定できます。変数はユーザがそれぞれのホームディレクトリに接続するときに動的に変換されます。パ

スで使用できる変数はです %w、`%d`および`%u`Windowsユーザ名、ドメイン、マッピングされたUNIXユーザ名にそれぞれ対応します。

## 手順

1. ホームディレクトリ共有を追加：`+vserver cifs share create -vserver vservice_name -share-name share_name -path path -share-properties homedirectory[,...]`

`-vserver vservice` 検索パスを追加するCIFS対応のStorage Virtual Machine (SVM) を指定します。

`-share-name share_name` ホームディレクトリ共有名を指定します。

共有名にリテラル文字列が含まれている場合は、必須の変数の1つに加えて、必要な変数も含まれています %w、 %u`または`%d`ONTAP がリテラル文字列を変数として処理しないようにするには、リテラル文字列の前に% (パーセント) 文字を付ける必要があります (例: ``%w)。

- 共有名にはどちらかを使用する必要があります %w または %u 変数 (Variable) :
- 共有名にはさらにを含めることができます %d 変数 (例: %d/%w) または共有名の静的な部分 (例: home1\_/%w) 。
- 管理者が、他のユーザのホームディレクトリに接続するために、またはユーザが他のユーザのホームディレクトリに接続するのを許可するために共有を使用する場合は、動的な共有名のパターンの先頭にチルダ (~) を付ける必要があります。

◦ `vservice cifs home-directory modify` は、を設定してこのアクセスを有効にする場合に使用します `-is-home-dirs-access-for-admin-enabled` オプションをに設定します `true`) または`advanced`オプションを設定します `-is-home-dirs-access-for-public-enabled` 終了: `true`。

`-path path` ホームディレクトリの相対パスを指定します。

`-share-properties homedirectory[,...]` その共有の共有プロパティを指定します。を指定する必要があります `homedirectory` 価値。追加の共有プロパティをカンマで区切って指定できます。

1. を使用して、ホームディレクトリ共有が追加されたことを確認します `vservice cifs share show` コマンドを実行します

## 例

次のコマンドは、という名前のホームディレクトリ共有を作成します %w。 。 `oplocks`、 `browsable``および` `changenotify` 共有プロパティは、に加えて設定します `homedirectory` 共有プロパティ。



この例で表示されているのは、SVM の共有の出力の一部です。出力は省略されています。

```
cluster1::> vservers cifs share create -vservers vs1 -share-name %w -path %w  
-share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory
```

```
vs1::> vservers cifs share show -vservers vs1
```

Vserver	Share	Path	Properties	Comment	ACL
vs1	%w	%w	oplocks	-	Everyone / Full
Control			browsable changenotify homedirectory		

## 関連情報

[ホームディレクトリ検索パスを追加しています](#)

[自動ノードリファラルの使用に関する要件とガイドライン](#)

[ユーザのホームディレクトリへのアクセスの管理](#)

ホームディレクトリ共有には、一意なユーザ名が必要です

を使用してホームディレクトリ共有を作成する場合は、一意のユーザ名を割り当てるように注意してください %w (Windowsユーザ名) または %u (UNIXユーザ名) 変数。共有を動的に生成します。共有名はユーザ名にマッピングされます。

静的共有の名前とユーザの名前が同じ場合、次の2つの問題が発生する可能性があります。

- ユーザがを使用してクラスタ上の共有のリストを表示したとき net view コマンドを実行すると、同じユーザ名を持つ2つの共有が表示されます。
- ユーザがその共有名に接続すると、常に静的共有に接続され、同じ名前のホームディレクトリ共有にはアクセスできません。

たとえば、「administrator」という名前の共有があり、「administrator」という名前の Windows ユーザ名が割り当てられているとします。ホーム・ディレクトリ共有を作成し、その共有に接続すると、「管理者」のホーム・ディレクトリ共有ではなく、「管理者」の静的共有に接続されます。

共有名が重複している問題を解決するには、次のいずれかの手順を実行します。

- 静的共有の名前を変更し、ユーザのホームディレクトリ共有と競合しないようにします。
- ユーザに新しいユーザ名を割り当てて、静的共有名と競合しないようにします。
- を使用する代わりに、「home」などの静的な名前を使用してCIFSホームディレクトリ共有を作成します %w 共有名との競合を回避するためのパラメータ。

アップグレード後に静的ホームディレクトリ共有名が受ける影響

ホームディレクトリ共有名にはのどちらかが含まれている必要があります %w または %u

動変数。新しい要件がある ONTAP のバージョンにアップグレードしたあとに、既存の静的ホームディレクトリ共有名が受ける影響について理解しておく必要があります。

ホームディレクトリの設定に静的共有名が含まれている場合に ONTAP にアップグレードしても、静的ホームディレクトリ共有名は変更されず、共有も有効なままです。ただし、どちらも含まない新しいホームディレクトリ共有を作成することはできません `%w` または `%u` 変数 (Variable) :

ユーザのホームディレクトリ共有名にどちらかの変数を含めるという必須条件によって、すべての共有名がホームディレクトリ設定全体で一意であることが保証されます。必要に応じて、静的ホームディレクトリ共有名を、どちらかを含む名前に変更できます `%w` または `%u` 変数 (Variable) :

## ホームディレクトリ検索パスを追加します

ONTAP の SMB ホームディレクトリを使用する場合は、ホームディレクトリ検索パスを少なくとも 1 つ追加する必要があります。

このタスクについて

を使用して、ホームディレクトリ検索パスを追加できます `vserver cifs home-directory search-path add` コマンドを実行します

。 `vserver cifs home-directory search-path add` コマンドは指定されたパスをチェックします `-path` オプション (コマンド実行時)。指定したパスが存在しない場合は、続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。お前が選べ `y` または `n`。をクリックします `y` 続行するには、ONTAP が検索パスを作成します。ただし、ホームディレクトリ設定で検索パスを使用するには、あらかじめディレクトリ構造を作成しておく必要があります。続行しない場合、コマンドは失敗し、検索パスは作成されません。その後、パスディレクトリ構造を作成し、を再実行できます `vserver cifs home-directory search-path add` コマンドを実行します

手順

1. ホームディレクトリ検索パスを追加します。 `vserver cifs home-directory search-path add -vserver vserver -path path`
2. を使用して、検索パスが正常に追加されたことを確認します `vserver cifs home-directory search-path show` コマンドを実行します

例

次の例は、パスを追加します `/home1` SVM `vs1` のホームディレクトリ設定に移動します。

```
cluster::> vserver cifs home-directory search-path add -vserver vs1 -path /home1

vs1::> vserver cifs home-directory search-path show
Vserver      Position Path
-----
vs1          1      /home1
```

次の例は、パスの追加を試みます `/home2` SVM `vs1` のホームディレクトリ設定に移動します。パスが存在し

ません。続行しないように選択します。

```
cluster::> vsriver cifs home-directory search-path add -vsriver vs1 -path
/home2
Warning: The specified path "/home2" does not exist in the namespace
        belonging to Vserver "vs1".
Do you want to continue? {y|n}: n
```

## 関連情報

### ホームディレクトリ共有の追加

## %w 変数と %d 変数を使用して、ホームディレクトリの設定を作成します

を使用して、ホームディレクトリ設定を作成できます %w および %d 変数。ユーザは、動的に作成された共有を使用してホームディレクトリ共有に接続できます。

### 手順

1. ユーザのホームディレクトリを含むqtreeを作成します。 volume qtree create -vsriver vsriver\_name -qtree-path qtree\_path
2. qtreeで正しいセキュリティ形式が使用されていることを確認します。 volume qtree show
3. 適切なセキュリティ形式がqtreeで使用されていない場合は、を使用してセキュリティ形式を変更します volume qtree security コマンドを実行します
4. ホームディレクトリ共有を追加します。 vsriver cifs share create -vsriver vsriver -share-name %w -path %d/%w -share-properties homedirectory\[,...\]  
  
-vsriver vsriver 検索パスを追加するCIFS対応のStorage Virtual Machine (SVM) を指定します。  
  
-share-name %w ホームディレクトリ共有名を指定します。ユーザがホームディレクトリに接続すると、ONTAP によって共有名が動的に作成されます。共有名の形式は \_windows\_user\_name です。  
  
-path %d/%w ホームディレクトリの相対パスを指定します。ユーザがホームディレクトリに接続すると、ユーザごとに \_domain/windows\_user\_name の形式で相対パスが動的に作成されます。  
  
-share-properties homedirectory\[,...\]+ その共有の共有プロパティを指定します。を指定する必要があります homedirectory 価値。追加の共有プロパティをカンマで区切って指定できます。
5. を使用して、共有が目的の設定になっていることを確認します vsriver cifs share show コマンドを実行します
6. ホームディレクトリ検索パスを追加します。 vsriver cifs home-directory search-path add -vsriver vsriver -path path  
  
-vsriver vsriver-name 検索パスを追加するCIFS対応のSVMを指定します。  
  
-path path 検索パスの絶対ディレクトリパスを指定します。



7. を使用して、検索パスが正常に追加されたことを確認します `vserver cifs home-directory search-path show` コマンドを実行します
8. ユーザにホームディレクトリがある場合は、ホームディレクトリを含むように指定した `qtree` またはボリュームに対応するディレクトリを作成します。

たとえば、パスが `/qtree` を作成したとします `/vol/vol1/users` ディレクトリを作成するユーザ名は `mydomain\user1` で、次のパスでディレクトリを作成します。

`/vol/vol1/users/mydomain/user1`。

にマウントされた「`home1`」という名前のボリュームを作成した場合 `/home1`` では、次のパスでディレクトリを作成します。 ``/home1/mydomain/user1`。

9. ドライブをマッピングするか、UNC パスを使用して、ユーザがホームディレクトリ共有に正常に接続できることを確認します。

たとえば、ユーザ `mydomain\user1` が、SVM `vs1` 上にあるディレクトリ（手順8で作成）に接続する場合は、UNCパスを使用して接続します `\\vs1\user1`。

#### 例

次の例のコマンドでは、次の設定を使用してホームディレクトリを設定を作成します。

- 共有名は `%w` です
- 相対ホームディレクトリパスは `%d/%w` です
- ホームディレクトリを含むために使用される検索パス `/home1、` は、NTFSセキュリティ形式で設定されているボリュームです。
- 設定は SVM `vs1` 上に作成されます。

ユーザが Windows ホストからホームディレクトリにアクセスする場合には、このようなホームディレクトリ設定を使用できます。また、ユーザが Windows ホストと UNIX ホストからホームディレクトリにアクセスし、ファイルシステム管理者が Windows ベースのユーザおよびグループを使用してファイルシステムへのアクセスを制御する場合にも、このような設定を使用できます。

```

cluster::> vservers cifs share create -vservers vs1 -share-name %w -path
%d/%w -share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory

cluster::> vservers cifs share show -vservers vs1 -share-name %w

Vserver: vs1
Share: %w
CIFS Server NetBIOS Name: VS1
Path: %d/%w
Share Properties: oplocks
                  browsable
                  changenotify
                  homedirectory
Symlink Properties: enable
File Mode Creation Mask: -
Directory Mode Creation Mask: -
Share Comment: -
Share ACL: Everyone / Full Control
File Attribute Cache Lifetime: -
Volume Name: -
Offline Files: manual
Vscan File-Operations Profile: standard

cluster::> vservers cifs home-directory search-path add -vservers vs1 -path
/home1

cluster::> vservers cifs home-directory search-path show
Vserver      Position Path
-----
vs1          1         /home1

```

## 関連情報

[%u 変数を使用してホームディレクトリを設定します](#)

[追加のホームディレクトリの設定](#)

[SMB ユーザのホームディレクトリパスに関する情報を表示する](#)

## %u 変数を使用してホームディレクトリを設定します

を使用して、ホームディレクトリを設定を作成し、共有名を指定できます %w 変数ですが、を使用します %u ホームディレクトリ共有の相対パスを指定する変数。これにより、ユーザは、ホームディレクトリの実際の名前やパスを意識することなく、Windows ユーザ名を使用して動的に作成された共有を使用してホームディレクトリ共有に接続できます。

## 手順

1. ユーザのホームディレクトリを含むqtreeを作成します。 `volume qtree create -vserver vsriver_name -qtree-path qtree_path`
2. qtreeで正しいセキュリティ形式が使用されていることを確認します。 `volume qtree show`
3. 適切なセキュリティ形式がqtreeで使用されていない場合は、を使用してセキュリティ形式を変更します `volume qtree security` コマンドを実行します
4. ホームディレクトリ共有を追加します。 `vserver cifs share create -vserver vsriver -share-name %w -path %u -share-properties homedirectory ,...]`

`-vserver vsriver` 検索パスを追加するCIFS対応のStorage Virtual Machine (SVM) を指定します。

`-share-name %w` ホームディレクトリ共有名を指定します。ユーザがホームディレクトリに接続すると、ユーザごとに `_windows_user_name` の形式で共有名が動的に作成されます。



を使用することもできます `%u` の変数 `-share-name` オプションこれにより、マッピング先の UNIX ユーザ名を使用して相対共有パスが作成されます。

`-path %u` ホームディレクトリの相対パスを指定します。ユーザがホームディレクトリに接続すると、ユーザごとに `_mapped_UNIX_user_name` の形式で共有名が動的に作成されます。



このオプションの値には静的な要素も含めることができます。例: `eng/%u`。

`-share-properties homedirectory\[,...\]` その共有の共有プロパティを指定します。を指定する必要があります `homedirectory` 価値。追加の共有プロパティをカンマで区切って指定できます。

5. を使用して、共有が目的の設定になっていることを確認します `vserver cifs share show` コマンドを実行します
6. ホームディレクトリ検索パスを追加します。 `vserver cifs home-directory search-path add -vserver vsriver -path path`  
  
`-vserver vsriver` 検索パスを追加するCIFS対応のSVMを指定します。  
  
`-path path` 検索パスの絶対ディレクトリパスを指定します。
7. を使用して、検索パスが正常に追加されたことを確認します `vserver cifs home-directory search-path show` コマンドを実行します
8. UNIXユーザが存在しない場合は、を使用してUNIXユーザを作成します `vserver services unix-user create` コマンドを実行します



ユーザをマッピングするには、Windows ユーザ名のマッピング先となる UNIX ユーザ名があらかじめ存在している必要があります。

9. 次のコマンドを使用して、UNIXユーザへのWindowsユーザのネームマッピングを作成します。 `vserver name-mapping create -vserver vsriver_name -direction win-unix -priority integer -pattern windows_user_name -replacement unix_user_name`



Windows ユーザを UNIX ユーザにマッピングするネームマッピングがすでに存在する場合は、このマッピング手順を実行する必要はありません。

Windows ユーザ名は対応する UNIX ユーザ名にマッピングされます。Windows ユーザは、ホームディレクトリ共有に接続すると、Windows ユーザ名に対応する共有名を使用して動的に作成されたホームディレクトリに接続することになります。その際、ディレクトリ名が UNIX ユーザ名に対応していることはユーザにはわかりません。

10. ユーザにホームディレクトリがある場合は、ホームディレクトリを含むように指定した qtree またはボリュームに対応するディレクトリを作成します。

たとえば、パスがのqtreeを作成したとします /vol/vol1/users ディレクトリを作成するユーザのマッピングされたUNIXユーザ名が「unixuser1」である場合は、次のパスでディレクトリを作成します。

```
/vol/vol1/users/unixuser1。
```

にマウントされた「home1」という名前のボリュームを作成した場合 /home1`では、次のパスでディレクトリを作成します。 `/home1/unixuser1。

11. ドライブをマッピングするか、UNC パスを使用して、ユーザがホームディレクトリ共有に正常に接続できることを確認します。

たとえば、UNIXユーザunixuser1にマッピングされるユーザmydomain\user1が、SVM vs1上にあるディレクトリ（手順10で作成）に接続する場合は、UNCパスを使用して接続します \\vs1\user1。

#### 例

次の例のコマンドでは、次の設定を使用してホームディレクトリの設定を作成します。

- 共有名は %w です
- 相対ホームディレクトリパスは %u です
- ホームディレクトリを含むために使用される検索パス /home1、は、UNIXセキュリティ形式で設定されたボリュームです。
- 設定は SVM vs1 上に作成されます。

ユーザが Windows ホストから、または Windows ホストと UNIX ホストからホームディレクトリにアクセスし、ファイルシステム管理者が UNIX ベースのユーザおよびグループを使用してファイルシステムへのアクセスを制御する場合には、このようなホームディレクトリ設定を使用できます。

```
cluster::> vservice cifs share create -vservice vs1 -share-name %w -path %u
-share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory
```

```
cluster::> vservice cifs share show -vservice vs1 -share-name %u
```

```

                Vservice: vs1
                Share: %w
CIFS Server NetBIOS Name: VS1
                Path: %u
        Share Properties: oplocks
                        browsable
                        changenotify
                        homedirectory
        Symlink Properties: enable
        File Mode Creation Mask: -
        Directory Mode Creation Mask: -
                Share Comment: -
                Share ACL: Everyone / Full Control
File Attribute Cache Lifetime: -
                Volume Name: -
                Offline Files: manual
Vscan File-Operations Profile: standard
```

```
cluster::> vservice cifs home-directory search-path add -vservice vs1 -path
/home1
```

```
cluster::> vservice cifs home-directory search-path show -vservice vs1
```

```
Vservice      Position Path
-----
vs1            1        /home1
```

```
cluster::> vservice name-mapping create -vservice vs1 -direction win-unix
-position 5 -pattern user1 -replacement unixuser1
```

```
cluster::> vservice name-mapping show -pattern user1
```

```
Vservice      Direction Position
-----
vs1            win-unix  5        Pattern: user1
                                Replacement: unixuser1
```

## 関連情報

[%w 変数と %d 変数を使用したホームディレクトリ設定の作成](#)

[追加のホームディレクトリの設定](#)

## 追加のホームディレクトリの設定

を使用して、追加のホームディレクトリ設定を作成できます `%w`、`%d` および `%u` 変数。必要に応じてホームディレクトリの設定をカスタマイズできます。

共有名と検索パスで変数と静的文字列の組み合わせを使用して、多数のホームディレクトリの設定を作成できます。次の表に、さまざまなホームディレクトリ設定を作成する例を示します。

で作成されるパス /vol1/user ホームディレクトリを含む...	share コマンド
をクリックして共有パスを作成します \\vs1\~win_username これにより、ユーザがに誘導されます /vol1/user/win_username	<code>vserver cifs share create -share-name ~%w -path %w -share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory</code>
をクリックして共有パスを作成します \\vs1\win_username これにより、ユーザがに誘導されます /vol1/user/domain/win_username	<code>vserver cifs share create -share-name %w -path %d/%w -share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory</code>
をクリックして共有パスを作成します \\vs1\win_username これにより、ユーザがに誘導されます /vol1/user/unix_username	<code>vserver cifs share create -share-name %w -path %u -share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory</code>
をクリックして共有パスを作成します \\vs1\unix_username これにより、ユーザがに誘導されます /vol1/user/unix_username	<code>vserver cifs share create -share-name %u -path %u -share-properties oplocks,browsable,changenotify,homedirectory</code>

## 検索パスを管理するコマンド

ONTAPには、SMBホームディレクトリ設定の検索パスを管理するためのコマンドが用意されています。たとえば、検索パスに関する情報を追加、削除、表示するためのコマンドがあります。また、検索パスの順序を変更するためのコマンドもあります。

状況	使用するコマンド
検索パスを追加します	<code>vserver cifs home-directory search-path add</code>
検索パスを表示します	<code>vserver cifs home-directory search-path show</code>

状況	使用するコマンド
検索パスの順序を変更します	<code>vserver cifs home-directory search-path reorder</code>
検索パスを削除します	<code>vserver cifs home-directory search-path remove</code>

詳細については、各コマンドのマニュアルページを参照してください。

## SMB ユーザのホームディレクトリパスに関する情報を表示します

Storage Virtual Machine（SVM）上の SMB ユーザのホームディレクトリパスを表示できます。これは、複数の CIFS ホームディレクトリパスが設定されている場合に、ユーザのホームディレクトリが含まれるパスを確認するときに役立ちます。

### ステップ

1. を使用して、ホームディレクトリパスを表示します `vserver cifs home-directory show-user` コマンドを実行します

```
vserver cifs home-directory show-user -vserver vs1 -username user1
```

Vserver	User	Home Dir Path
-----	-----	-----
vs1	user1	/home/user1

### 関連情報

[ユーザのホームディレクトリへのアクセスの管理](#)

## ユーザのホームディレクトリへのアクセスを管理します

デフォルトでは、ユーザのホームディレクトリにはそのユーザしかアクセスできません。動的な共有名の前にチルダ（ { チルダ } ）が付いている共有の場合、Windows 管理者や他のユーザ（パブリックアクセス）によるユーザのホームディレクトリへのアクセスを有効または無効にできます。

### 作業を開始する前に

Storage Virtual Machine（SVM）のホームディレクトリ共有に、動的な共有名の前にチルダ（ { チルダ } ）を追加した共有名を設定する必要があります。共有の命名要件は次のとおりです。

ホームディレクトリの共有名	共有に接続するコマンドの例
{ チルダ } %d { チルダ } %w	net use * \\IPAddress\~domain~user/u:credentials
{ チルダ } %w	net use * \\IPAddress\~user/u:credentials
{ チルダ } abc { チルダ } %w	net use * \\IPAddress\abc~user/u:credentials

## ステップ

1. 適切な操作を実行します。

ユーザのホームディレクトリへのアクセスを有効または無効にする対象	入力するコマンド
Windows 管理者	vserver cifs home-directory modify -vserver vserver_name -is-home-dirs -access-for-admin-enabled {true false} デフォルトはです true。
任意のユーザ（パブリックアクセス）	a. 権限レベルをadvancedに設定+ set -privilege advanced  b. アクセスを有効または無効にします。`vserver cifs home-directory modify -vserver vserver_name -is-home-dirs-access-for-public -enabled {true

次の例は、ユーザのホームディレクトリへのパブリックアクセスを有効にします。+ set -privilege advanced [] `vserver cifs home-directory modify -vserver vs1 -is-home-dirs-access-for-public-enabled true` []  
set -privilege admin

## 関連情報

[SMB ユーザのホームディレクトリパスに関する情報を表示する](#)



## 著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。